

第53回車座集会（幸区）摘録

- 1 開催日時 令和5年1月22日（日） 午前10時00分から正午まで
- 2 場 所 Fujitsu Uvance Kawasaki Tower
- 3 参加者等 30名（参加者21名、傍聴者9名）

<開会>

司会：それでは定刻となりましたので、ただいまから「第53回車座集会」を始めさせていただきます。
私は、本日の司会を務めさせていただきます幸区役所企画課の日野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の車座集会は、「幸区の治安イメージの向上～川崎市の玄関口である川崎駅西口周辺を事例として～」と題して、川崎駅西口周辺の治安イメージの改善について、市長と参加者の皆様に意見交換を行っていただきます。

では、まず初めに、早速ですが、本日、参加いただいている皆様をご紹介します。お名前をお呼びしますので、手を挙げていただきますよう、よろしくお願いいたします。

南河原地区町内会連合会会長、中川さん。

常任理事、滝澤さん。

川崎西口商店会、大矢さん。

幸区女性防犯推進委員会会長、伊東さん。

続きまして、JR川崎駅でございますが、副駅長に出席いただく予定でございますが、諸事情により欠席となります。

続きまして、本日、この会場もお借りさせていただきます。事前準備の段階からご協力もいただいております。富士通の山岸さん。

ホテルメトロポリタン川崎、豊田さん。

ラゾーナ川崎プラザ副所長、鈴木さん。

南河原小学校PTA副会長、管沼さん。

南河原中学校PTA副会長、藤井さん。

続きまして、本日は幸区内の中・高・大学生にも参加いただいておりますので、順番にご紹介いたします。

南河原中学校から2年生に参加いただいております。

井出さん。

上原さん。

小池さん。

総合科学高校の2年生、黒澤さん。

田代さん。

3年生の井上さん。

馬場さん。

続きまして、幸高校から2年生の阿部さん。

五十嵐さん。

座間味さん。

最後に、看護大学1年生の岸本さん。

藤枝さん。

続きまして、行政からの出席者をご紹介します。

福田紀彦川崎市長でございます。

赤坂慎一幸区長でございます。

それでは、開会に当たりまして、市長からご挨拶を申し上げます。

福田市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：皆さん、改めましておはようございます。日曜日の午前中から、皆さんの貴重な時間を使ってお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

今日のテーマは治安についてということで、幸区が取ったアンケートで不安に思っていることについて、後でちょっと詳しく説明があると思いますが、特にないというのが1番多いということですけれども、次にやっぱり治安の問題というのが、非常に不安だなと思っている方が多いというのは、ややショックな感じですね。その原因というのは何なのかということと、それからどうしたらこういったものが回復できるのかというのは、とても大事な話だと思うので、今日は若い人たちもたくさん参加をいただいて、そして日頃から地域の中で活動していただいている皆さん、それから周りでお仕事をされている皆さんにもいろんな多様な関係者がいらっしゃるの、ぜひみんなで知恵を出し合って、どうにかこの体感治安といいますか、治安はいいねと、すてきなまちだねと言われるような、そんな幸区をつくり上げていく、今日はそのプロセスの一過程にしたいと思っていますので、皆さんから積極的な意見をいただければと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

<事務局からの説明>

司会：それでは、本日の開催趣旨についてご説明を簡単にさせていただきます。

本日のテーマであります治安に関するデータ、市長からの挨拶でもありましたけど、データを見ますと、川崎市は他都市と比較して、人口1,000人当たりの刑法犯認知件数、これはすごく低い状態でございます。また、幸区は実は川崎市の中でも低い値となっております。しかしながら、区民アンケートや高校生アンケート、これにおいては、先ほどの市長の挨拶のとおり、治安に関して不満に感じている人の割合が非常に多いという結果が出ております。

そうしたことから、本日ご参加いただいている皆様からご意見を伺って、治安イメージ向上に向

けた、皆さんと市民と事業者、我々行政が一体となって取り組み、改善を図ることを目的にさせていただいております。

まずは、意見交換に入ります前に、治安に関する基礎データ、こちらについて事務局から説明をさせていただきたいと思います。

では、弓場さん、よろしく願いいたします。

<事務局からの説明>

弓場係長：幸区役所企画課の弓場と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私のほうからは、幸区の治安イメージに関する基礎データのほうを、前のスライドを使って簡単にご紹介させていただきたいと思います。私の説明の後に、幸高校さんのほうから、治安イメージ向上に向けて今年度研究していただいた成果を発表していただきますので、私のほうからは簡単にご紹介をさせていただきます。

それでは、ご説明させていただきたいと思います。

お話しする内容ですけれども、目次でございしますが、1番、統計データから見る幸区の治安イメージ。2番、統計データから見る幸区の治安の実態という形でお話しさせていただきたいと思います。

1番の統計データから見る幸区の治安のイメージでございすけれども、先ほど市長のほうからも、また司会のほうからも、幸区民のアンケートで不満に感じているのは、治安や風紀だというお話がありましたけれども、実際に幸区民のアンケートの中からグラフを抜粋しております。赤枠で囲っておりますけれども、治安や風紀が25.7%と不満に感じている割合がかなり高いです。若干、特にないという27.7%があるので、そこは私どもとしては幸区役所職員、川崎市の職員としてうれしいのですが、やっぱり治安や風紀が25.7%とかなり高いので、ここは何とかして治安イメージを向上したいという思いであります。

続いて、幸区の高校生アンケート、これは今日もご出席いただいている幸高校さんと総合科学高校さんの高校生、2年生にアンケートを取らせていただきました。先ほどの幸区民アンケートも、幸区の高校生アンケートも令和2年度に取らせていただいたアンケートでございす。幸区の高校生は、高校の2年生に取らせていただいたデータの結果でございす。ここで、やはり区民アンケートと同じように、治安や風紀が33.1%と、不満に感じるところの割合として高くなっております。一方で、その右側のほうのスライドで赤で今レーザーポインターで示していますけど、特にないというのが高校生に対しては48.1%とかなり高くなっているんですけども、それでもやっぱり治安や風紀というのが33.1%で次に高い数字となっております。

続いて、川崎市都市イメージ調査というのを令和3年度にやっております。この中で、幸区の治安イメージに悪い影響を与えているものはどれだと思いますか、というような質問の仕方をして選んでいただいております。このスライドは私の後に幸高校さんがご説明しますけれども、幸高校さんと同じスライドですので、詳細の説明は幸高校さんのほうにお願いしたいと思います。

続きまして、今度は実態のほうに移りたいと思います。2番、統計データから見る幸区の治安実態でございす。

幸区の治安の実態でございすけれども、大都市データランキングというものから引っ張ってきたグラフでございす。これは、政令指定都市20市と東京都の23区、合わせて21大都市で比較したデータでございす。この中で、人口1,000人当たり刑法犯認知件数というのを、1,000人当たりの件数を出しています。中学生さんには、刑法犯認知件数というのはちょっと難しいかもしれないですけれども、正確に言うと、刑法犯認知件数イコール犯罪の発生の数ではないの

ですが、今日のこの場では刑法犯認知件数が犯罪の発生の数というふうにして聞いていただければと思います。

この中で、21大都市がありますけれども、川崎市は3番目に刑法犯認知件数が少ないです。これは、令和2年の大都市のデータランキングでございます。ちなみに、令和元年の大都市データランキングでいきますと、川崎市が横浜市と並んで、1番大都市の中で刑法犯認知件数が少ないというデータが出ております。

続いて、これも令和2年の大都市データランキングから引っ張ってきたもので、人口10万人当たりの少年犯罪検挙人員でございます。人口10万人当たりの検挙した人数です。それは21大都市の、大阪市から始まって川崎市が1番検挙した人数も少ないです。ちなみにこの割合は2年だけじゃなくて令和元年も川崎市が少ないです。

続きまして、今、人口10万人当たりだとか1,000人当たりとかというふうにご紹介させていただいたんですけれども、川崎市周辺だけでほかの大都市と比べて、まず数で比較したらどうなのかな、総数で比較したらどうなのかなというので、ここに表を左側のほうにつけています。当然、東京都は人口の数がこれだけ約970万人位いますので、数は多いんですけれども、数で言うと、川崎市よりさいたま市のほうが刑法犯認知件数、令和2年の数字ですけれども、8,000あるのが、川崎市のほうが人口は20万人ほど多いんですが、それでも川崎市のほうが少ないというのがここから見てとって分かるかと思えます。

右側の表ですけれども、区別に見たらどうなんだろうと思ひまして、区別にちょっと表を作ってみました。これも令和2年の件数なんですけれども、件数でいくと、川崎区は1,994件とかなり数が多いかなと思ひています。それ以外のところを見てみますと、幸区が674件でございます。これを1,000人当たりの件数で割ったところ、川崎区は8.6件とかなり高い数字になっていますが、それ以外は幸区3.9件、傾向といたしましては、宮前区が2.1件、麻生区が2.3件と少ない傾向となっております。

最後でございますが、区内の主な犯罪情報というものを、川崎市のほうで犯罪、こういった自転車盗難、車上狙い、空き巣、ひったくり、路上強盗などがありました。警察署のほうから連絡をいただいている状況でございます。それを市民の皆様にお伝えてしております。そのデータから、令和3年分のデータを毎日毎日集計しまして、各地区別に幸区内の件数を出してみました。

幸区は日吉地区、御幸地区、南河原地区というふうに分かれています。今回、皆さんに議論いただくのは、この川崎駅西口を中心としたお話をさせていただくので、そこは南河原地区、この地図で言うところの赤枠で囲っているところですね、ここを今日議論いただきたいと思ひています。その主な犯罪情報ということで、件数を出してみました。南河原地区が64件、御幸地区が79件、日吉地区90件となっております。64件の中身って何なんだろうということで調べましたところ、自転車の盗難が62件ございました。ほぼ自転車の盗難でございます。あと車上狙いが1件、空き巣が1件ございました。

統計データから見る幸区の治安のイメージ、幸区の治安の実態ということで、私の説明は以上でございます。

<高校生の生徒によるプレゼン>

司会：続きまして、幸高校さんに発表していただきますが、幸高校では、総合的な探求の時間の中で課題解決型学習として、地域が抱える課題を自分との関わりの中で学習する「幸探求」を行っていただいております。今日参加いただいている阿部さん、五十嵐さん、座間味さんは、この幸探求の中で幸区の治安イメージについて研究をいただいておりますので、研究の分析の発表をしていただ

きます。 それでは、よろしくお願いいたします。

一同：こんにちは。

五十嵐さん：私たちは、総合的な探求の時間で幸区の治安イメージについて調査をしたので、発表します。
幸高校2年の五十嵐です。

阿部さん：阿部です。

座間味さん：座間味です。

一同：よろしくお願いいたします。

五十嵐さん：皆さんは治安について、まずどのように考えていますか。治安とは安心・安全な状態であると私たちは考えました。

私たちは、安心・安全だと感じられない状態とは犯罪が多いことだと考えたので、まずは川崎市内の犯罪認知件数について調べてみました。

こちらの表をご覧ください。これは、川崎市内で起きた確認できた犯罪の件数です。刑法犯認知件数とは刑法という法律に触れる犯罪で警察が確認できた件数です。なお、凶悪犯は殺人や強盗、粗暴犯は暴行や恐喝、窃盗犯は万引きやひったくりなどの盗み、知能犯は詐欺や横領、風俗犯はわいせつ行為、その他には公務執行妨害などが当たります。これを見ると、どの犯罪件数も幸区は少なく見えます。

より分かりやすいようにグラフにしてみました。こうして見ると、合計件数が3番目に少ないことが分かります。令和4年4月1日の人口で発生率を計算・比較してみると、幸区は川崎区の約半分以下なので、総体的に治安はよいと言えます。

阿部さん：次に、川崎市の過去の刑法犯認知件数の推移です。これを見てみると、平成14年以降から年々減少していることが分かります。グラフから、犯罪認知件数が少ないだけでなく年々減少していることから、現在の幸区の治安は悪くないことが分かります。

先ほどのグラフですが、平成14年以降、年々減少傾向になったと思われる理由を調べてみました。主に平成15年12月に行われた国の犯罪対策閣僚会議で、犯罪に強い社会の実現のための行動計画が示され、空き交番の解消や地域の自主防犯活動支援だけでなく、ナンバープレートの悪用防止や自転車の盗難防止など、犯罪のしにくい環境づくりが行われました。それにより、警察や地域の方々が協力し犯罪が減ったのではないかと考えました。

座間味さん：では、実際に犯罪が減り、安心・安全なまちになったはずなのに、なぜ治安イメージが悪いままなのでしょう。そこで、幸高校生に幸区の治安イメージのアンケートを取ってみました。

アンケートの結果は、「治安イメージが悪いと思う」と答えた人が60%、「悪いと思わない」と答えた人が40%という結果になりました。そのアンケートで治安の悪いと思う理由を聞いたところ、ほぼ毎日エンジンをふかしたバイクの音が聞こえる、コンビニで傘を複数回盗まれた、自転車を盗まれた、信号無視、事故が多い、夜コンビニや公園がたまり場になっている、煙草の吸い殻のポイ捨てが多い、昔からのイメージ、変質者が多いなどが挙げられました。

川崎市都市イメージ調査では、幸区の治安イメージに対して悪影響を与えているものを調査していますが、先ほどの幸高校生と意見が多く重なっていることが分かります。刑法犯認知件数と関連しそうなものは、不審者、変質者がいる、ひったくりや痴漢などの犯罪が多い、凶悪な事件があったの3つほどです。それ以外に、マナーが悪い人が多い、ごみが道に散らかっている、街灯が少ない、道が暗いなどの身近な困り事が多く見られ、その積み重ねによって悪い治安イメージが生じているのではないのでしょうか。また、右から2番目の競馬場や競輪場とありますが、川崎区と混同されている可能性が考えられます。

五十嵐さん：最後にまとめです。警察が認知できない身近な困り事の積み重ねだけでなく、平成14年以前の負のイメージが多くの人々の頭に残っていることもあり、現在の治安イメージにつながっているのではないかと私たちは考えました。

以上で幸高校の発表を終わります。

一同：ありがとうございました。

<意見交換①>

司会：発表ありがとうございました。

それでは、ここからは事務局からご説明させていただいた統計データや今の幸高校の発表を踏まえまして、治安イメージが悪い要因について、市長と皆様で意見交換をしていただきたいと思います。それでは、ここからの進行は市長、よろしく願いいたします。

市長：幸高校の皆さん、発表ありがとうございました。

分析をしていただいて、これをまず皆さんどういうふうに、この区役所からのアンケート、それから幸高校からのアンケートと分析というのを皆さん見ておられて、意外と一致しているというふうなのは、先ほどあったとおり、幸区役所がやった区民全体の調査と、高校生が思っているイメージというか、感覚というのがほぼニアコールだったということでもあります。このことについて、皆さんどういうふうにお感じになったかということ或少しコメントいただければと思うんですが、どなたからでも結構ですけれども、もしコメントがあれば挙手をお願いできますか。なければちょっといろんな人に聞いていきたいと思いますが、まずはどなたか。

伊東さん、いかがですか。

伊東さん：防犯の担当として私は地域を回っておりますけど、今、高校生の件数をよく見まして、やはりそうだなということを感じました。防犯キャンペーンをやっていると、たばこの吸い殻とか、それからやっぱりコンビニ辺りでたまり場になっているところが多いですね。自分たちのところは大丈夫だと思いつつも、やはり2、3人集まると、高校生、中学生、そういう方が結構多いので、そういうところが一応気をつけたほうがいいかなと思う感じを受けました。

市長：ありがとうございます。

それでは、ホテルメトロポリタンの豊田さん、いろいろと美化への関心も高いということで、いろいろと地域デザイン会議でもご発言いただいているというふうに聞いています。

豊田さん：今の高校生のアンケートのほうでまさにそうだなと思ったのが、今、伊東さんもおっしゃった

とおりで、やはり実はホテルの1階のコンビニエンスストアがある横の辺りで、結構夜になりますとたまり場になりまして、たばこを吸っていたりですとか、飲酒していたりという方々が結構多く見られておりました。しかしながら、最近、市役所のほうの方が結構見回りに来てくださって、それから少しずつ減っているというのも事実なので、その辺りが今回のヒントかなというふうに感じております。

市長：区役所による見回りというのが、少し効果が出てきているのではないかということですね。

豊田さん：そうですね。朝夕、必ず2、3人で見回りに来てくださいますし、人の目があるというのがやはり皆さん気になるといふか、防止につながっているのかなというふうに思っておりますので、状況も徐々にきれいになっておりますし、ごみの散らかり状況も徐々に改善されているのではないかなというふうに感じております。

市長：ありがとうございます。

続いて、ちょっと同じ商業という意味ではラゾーナの鈴木さんもよろしいですか。

鈴木さん：やはり先ほどのデータ等々を見ていますと、実際のいわゆる犯罪というよりも、犯罪とまではいかないんですけども、イメージの中で、それぞれの年代によって、例えば怖いなどということってちょっと違ってくると思うんですけども、犯罪まではいかない、そういうちょっと怖いなどという経験をここの中でされたことがあるみたいな人が多いと、ああいうイメージ調査みたいなのだと少し数字が出てくるのかなというふうに感じていまして、実際にやはり何か本当に怖い犯罪が起こるといふよりも、ラゾーナ川崎でもそういった件数というのはほとんどなくて、例えば、先ほどお話にちょっと出ましたような、ごみが少し散らかっていることが、これは館内でもそうですし、周辺の路上なんかでもやはり見かけることがあるなというところ、あとはたばこかのお話もありましたけれども、やはり少しどちらかというところ、そういったモラルみたいな話のほうは少しあるのかなというところが1点です。

あとは、例えば、高校生、中学生、学生の皆さんからしてみれば、例えば、私ちょっと今考えたんですけど、ちょっと怖いなど思うけれども、大人は怖くないなど思うことって何だろうと思ったとしたら、例えば、ちょっと繁華街で大人たちがお酒を飲んで大きな声を出して、集団で少し話しているというのは、もしかしたら怖いのかなというふうに感じると思いますが、逆に我々大人からしてみると、例えば高校生、大学生ぐらいの方々がやっぱり集団で大きな声を出して、先ほどのコンビニじゃないですけども、そういったところでお話をされたりするとちょっと怖いなどいうふうに、大人から見ると感じる部分もあるのかなというふうに思いました。

市長：ありがとうございます。

今、怖いことというのは各年代によって異なるのではないかというのは非常にいい視点かなというふうに思いました。確かにそうですね。

今、すごくうなずいてくれた、黒澤さんでよかったですか。

黒澤さん：そうです。

市長：じゃあ、今うなずいてくれていましたけど、コメントいただいていた方がいいですか。

黒澤さん：何かやっぱり怖いことって、さっき大人数とかでいられると怖いというのが話に上がったと思うんですけど、何かそういう自分から見てもやっぱり夜とかそういうコンビニの前とかで暗いところで大人数がたまっていたりすると、やっぱりコンビニとか入りづらかったりするので、やっぱり大人数が怖いというのが、僕の視点からなんですけど、やっぱり大人数とかでたまり場になっているとやっぱり入りづらいとかいうので、そういう怖いというのは感じますね。

その怖いという経験から、やっぱりこういうアンケートにつながっちゃうのかなというのがありますね。やっぱりコンビニとかって、やっぱりいろんな人が使うので、多くの人がそういう同じような経験をすると、こういうアンケートでも怖いという、不安、治安が悪いみたいな票が多く集まっちゃうのかなというのがあると思います。

市長：先ほどのコメントでうなずいてくれていた隣の小池さんもうなずいてくれていたし、その次に田代さんも聞いていいですか。小池さん、田代さんの順番でお聞かせいただいていたいいですか。

小池さん：僕は、同じ学年の周りの人とかと、路上喫煙されている方とか、ルールを守れない方を見ると、この人は悪い人なのかなというイメージが周りの人からも自分からしても根づいているんじゃないのかなと思います。

市長：ありがとうございます。田代さん、いかがですか。

田代さん：データとして見ると、高校生と区民のアンケートで内容が似ているというのはあると思うんですけど、その中身が、公共の場でのマナーが悪いという1つのくりにすると同じかもしれないんですけど、やっぱりその年代によって怖いと思うことが違うというのがあると思って、公共の場でのマナーが悪いというのを、例えば大人が見て感じるマナーの悪さというのは、高校生たちがコンビニの前でたまっているだったりとかすると思うんですけど、逆に子供たち側からすると、飲み屋街でいるような大人たちが怖いなと思ったりとかすることがあると思うんですけど。

市長：ちなみに、田代さんから大人のこういう行為がちょっと怖いなと思うことって何かありますか。

田代さん：そうですね、私は割と学校の帰りが遅いときとかがあって、夜遅くに川崎駅周辺にいたりとかするんですけど、そういうときに、やっぱり大人数で騒いでいる大人が割と怖いなと思うのと、あと、たまに声をかけられたりとかすることもあるので、そういうのはやっぱり子供からすると割と怖いと思います。

市長：声かけが多いという話は私も聞いていて、市長への手紙でも、あの声かけというのは本当にイメージを悪くしているという投書をたくさん頂きますね。ありがとうございます。

本当に鈴木さんが先ほどご指摘いただいたように、また、今、田代さんに言っていたように、同じグラフを見ても、実は性質が違うんだというのが何となく皆さんの共通認識なのかなというふうに思いました。それから、先ほどの幸高校の発表の中で、ああ、これはすごくいいキーワードだなと思ったのが、身近なことの積み重ね。それから先ほどコメントが出ていましたけれども、犯罪には至らないけれども、それ以下のマナーやモラルみたいな、そういったところがよく見られると、それがかなり体感治安を悪くしているのではないかというふうな話がありましたね。

親御さんの立場からのコメントも少しいただきたいというふうに思いますけれども、それでは、

管沼さんと藤井さんの順でコメントをいただいてもよろしいですか。

管沼さん：ちょっと今回すみません、市長の質問からずれてしまうのかもしれないんですけど、今のお話の流れですごく気になったのが、幸区の治安イメージのアンケート312人の方が答えてくださっていると思うんですけど、それがどの年代層の方が答えていて、じゃあ、マナーというのが何を指すのかというのが多分はっきりしないと、どういうイメージが繋がっているのかなというのが正直分からないなという、マナーという1つの言葉に含まれるのが、交通なのか、喫煙とかポイ捨てなのかというのが全部含まれてくるので、そこはもうちょっとデータだけを見るのではなくて、もうちょっと何を言いたいのかというのを見る必要があるのかなというのは1つ思いました。

私、今、3人子育てしております、中学校、小学校、保育園とみんな南河原地区、もしくは駅前付近に通っているんですけども、よく思うのは、さっきどなたかが言っていた大人の方が喫煙しているという、基本は路上喫煙駄目だと思うんですけど、吸っている方がいたりですとか、あとは自転車で、高校生の皆さんいるので皆さん大丈夫だと思うんですけど、結構朝急いでいるのか、市電通りなんかをすごいスピードで走っている子がいて、信号無視をしていたりする子がいるので、ちょっと子供を連れている身としては危ないなと思うことがあったり、中・高生だけじゃないんですけど、ウーバーイーツの方とかも結構ふらふらしたりしていて、それが幸区のイメージにつながるかといったら少し微妙なんですけど、そういうところはちょっと怖いなと思ったり、なかなか自分から声がけすることはやりにくいんですけど、ちょっと危険を感じたこともありました。

一方で、私すぐ近くに住んでいまして、大きな交差点のところに軟らかいポールが立ってスピードを落とすような加工が何年か前にされたりしているので、恐らくそういう声が市民からも上がっているのかなと思っていて、そういったところが反映されたのはいい点かと思いました。

市長：ありがとうございます。藤井さん、いかがでしょうか。

藤井さん：南河原中学校PTAの藤井です。よろしくお願いします。

アンケートの結果で治安が悪いと思う理由って自分でも何だろうと、やっぱりいろいろ今ちょっと管沼さんが言われている横で思ったのが、やっぱりまず、例えばですけど、さきに言われたとおり、私も自転車に乗るんですけど、自転車のマナーが悪い。例えば、自転車であれば軽車両であるので車と同じような動きをしないといけないと思うんですけど、平気で逆走する方がいらっしやるとか、何か意外と、今、小学校とかだと自転車の乗り方とか、そういう教室というか、授業であったりするので、意外と子供よりも大人のマナーが悪かったりするというのが、私も含めてですけど、あると思うので、やっぱり私たち大人自身が、もうちょっと例えば自転車1つに取っても、乗り方とか、ルールをもう1回ちゃんと学ばなきゃとか、見直さなきゃいけないんじゃないかなとか、ちょっと思ったりもします。意外と子供よりも大人のマナーというのをもうちょっと見直しとか、考えたほうがいいのかと思いました。

市長：ありがとうございます。

実は本当に自転車マナーのことについては、この5年間ぐらいで物すごくいわゆる苦情というか、市長への手紙でもご指摘いただくことが多いんですけど、おっしゃったとおり、子供よりも大人への注文というのは非常に多いですね。

ただ、なかなか大人に対する再教育というのが、非常にそういう機会というのが難しいという部分もあるんですけど、今、中川会長は、この交通安全のことも含めて、すごく力を入れていただい

ている立場からも少しコメントをいただければと思うんですけども、ちなみに中川さんは幸区の町会の全部をまとめていただいている会長さんでもあります。

中川さん：皆さん、こんにちは。私、生まれも育ちもこの南河原の大宮町というところで生まれ育ちましたので、この近くのことをよく分かっているつもりなのですが、今日いろいろお話を聞いてみると、ああ、なるほどなと思うようなこともありますけれども、最近、今、皆さんからもいろいろとお伺いして、自転車の件ですね、自転車の事故、あと件数、あとは盗難ですね、これはもう日に日に増えています。

私、思うんですけど、先ほど皆さんの意見聞いて、何でこの川崎がこういうイメージなのかな、幸区はと思いますと、これ、過去の思いも多少引きずっているんじゃないかなと思います。あと、YouTubeとかSNSで川崎が出ると、必ずディープなまち川崎とか、そういうイメージが結構皆さん、僕も見るときがあるんですけども、これだけじゃないのになと思うところばかりやると、結構面白がって皆さんが見るんですよ。

そういうイメージもちょっと膨れ上がっているのかなと思うんですけども、あと、先ほどの皆さんのことを聞いていますと、犯罪とか事件にならない事件というところが1番怖いんじゃないかなと思っています。それは表に出ないものであって、例えば自転車の歩行者、自転車同士、車であっても、なかなか登録に上がってこないもの、それと先ほど来コンビニの環境を言っていますけれども、コンビニで、じゃあ、何があったんだろう。よく私も見かけるんですけども、コンビニの外で飲酒をしている、それが3人、4人たむろって、そうそう若い人たちではないですね。何か家に帰れないで3、4人でお話ししながら、本人たちは楽しいんでしょうけれども、なかなか外から見るとあまりいい風景ではないなと思います。

そういうことで、さっき豊田さんからもお話がありましたけれども、町内会でもちょっと区役所とミュージア1階のコンビニのことが少し私もお話をさせていただきまして、大分きれいになりました。あそこは何かもっと明るくつくと、光ももう少しつけたりすると、あとはミュージアのいろんな方たちの皆さんで、地元でも私たちとも協力しながらやっていけばいいと思いますけれども。

中川さん：私、そうですね、23年ぐらい前から保護司をやっております。保護司をやっているんですが、23～24年前の保護司さんたちというのは、大体人数は変わっていません。この南河原地区というところで大体6人前後です。当時は私たちが見なければいけない方、対象者と言いますけれども、その方たちが1人の保護司さんが5人全部持っていました。そしてミュージアができて……。

市長： 中川会長、保護司さんのことって、みんな分かっている…保護司さんって分かる？ちょっと保護司さんのことを少し触れていただけますか。どういう役割を果たしているのか。

中川さん：やはり犯罪に手を染めた方たち、その方たちに対して更生保護ですよ。社会に通じるように、皆さんが社会に復帰できますように、そういう形で私たちはお付き合いをしながら社会復帰をしていただくと。

そういう形のことをやっているんですけども、ここの開発が始まりまして、柳町工場と昔は東芝の堀川町工場、そこがラゾーナになりました。ミュージアの下には、ミュージアが今ありますね。その下には、もう本当に狭いところに100軒ぐらいの飲食店が固まっていた。それで、あとは柳町という工場がありましてね、そこは3交代です。24時間稼働していた工場なんです。ですから、朝から晩まで人通りがありまして、こういうことを言ったらあれですけど、先ほど来、たばこ

の話が出ていますけれども、街路樹に缶からが入っているんです。当時はプラタナスなんですけどね、5メートル間隔ぐらいの。そこが1日中煙が出ていました。ごみは今以上に、ベンチでは大体朝寝ているおじさんがいたり、そういうのが私が育ってきたこの南河原なんですけれども、それがこの開発が始まりまして全く変わったんですね。

変わったからいいなと思っていても、今日皆さんのご意見聞いていて、やはりこれからさらによくしていかなきゃいけないなと思っているんですけれども、それでさっき保護司の話をしたんですが、当時の保護司さんは大体1人で5人から6人を持っていました。今、持っていない保護司さんがいます。更生させるために持っていない保護司さんが6人いるんですけれども、いない人もいます。私は1人ですけれども、そのぐらい環境が変わってきますと、社会もそのように順応してくるんだなと思っています。

何かまとまりませんが、こういう形で、やっぱり自転車の事故だけは、全員といたしますか、私も乗りますけれども、高校生の皆さんも自転車を持っていますよね。個人個人がもっと注意していただいて、これはなかなか難しいんですけれども、歩道と自転車可の部分が結構あるんです、この辺も。そこが1番危ないんですね。本来は、前に人がいたら自転車に乗っている人は降りなきゃいけないんです。降りて歩くんですね。それがなかなかできない。ですから、私もこれからはマナーの追求、あとは先ほど市長も言いましたけれども、大人はなかなか直らないんですけど、いつも言うんですけれども、交通安全、安全に関しても幼児教育が1番大切なんですよ、子供の頃からの。今日は、皆さんありがとうございました。

市長： ありがとうございます。

市長： ちょっと区長から、先ほどのマナーの分析のところについてちょっと発言がありますので。

区長： 先ほど来、皆様のほうからマナーの中身についてお話があったかと思うんですけど、アンケート調査の今日の発表にはなかったんですけども、幸区におけるマナーの分析という調査も同時並行でやっています、それをちょっとデータのほうを皆さんにご披露させていただきたいと思うんですが、幸区でやはり1番マナーが悪いと思われるアンケート調査の結果ですと、「自転車がスピードを出して歩道を走行する」、これが29.6%ということで1番トップです。7区全部でやっているんですけれども、幸区だけがこれがトップです。ほかの区は「歩きスマホする」だとか「特にない」だとか、多いんですけれども、幸区の特徴としては、やはり自転車の問題が今申し上げたように29.6%と3割ぐらいあります。

以下「歩きスマホ」、それから「指定場所以外でたばこを吸う」、「ごみ収集のルールを守らない」、「どれもない」、「ごみのポイ捨てをする」、「自転車の放置、迷惑駐輪」、「公共の場で騒ぐ」、先ほどちょっとありましたね。あと声かけられるというのがありましたけど、この「公共の場で騒ぐ」というのが9.5%あるので、10人に1人ぐらいの方はやっぱりそういったのをマナーが悪いなというふうに思われている方が多いのかなと思いますし、その次に「近所の住人に挨拶をしない」とか「エスカレーターを歩く」という「路上で飲酒する」というのも今度こちら辺で出てきましたけど、これ7.2%なんですね。

なので、大体皆さんが今おっしゃられてきた内容というのは、やはりアンケート調査の結果と大体符合してくるのかなというようにございまして、川崎市全体のマナー調査とも、やはり少し幸区の部分では、今申し上げたように自転車の部分だったり、お酒の部分だったりというのが少し特徴的なのかなということなので、そういったところを踏まえて、またこれからの議論をお願い

したいと思います。

市長： ありがとうございます。

大体、治安のイメージを悪くしているものというふうなのがアンケート結果からも、あるいは皆様のご発言からもいろいろ出てきたと思います。具体的に、ここは危ないよねとかというような具体的なイメージ、今、地図を貼っていますけど、何かそういったところあったら併せて、今までのような発言でもいいんですけども、こういったところが具体的に危ない、レッドゾーンとかイエローゾーンじゃないですけど、ちょっとここは本当に気をつけたほうがいいなというところがあれば、併せてお伺いできればと思いますけれども、いかがでしょうか、どなたかいらっしゃいますか。

はい、どうぞ、馬場さん。

馬場さん：私が学校帰りにちょっと通ってちょっと怖いなと思ったところがあって、ラゾーナ川崎さんの上の芝生とベンチがあるところがあるじゃないですか。あそこに、ちょっと柄の悪い高校生がちょっとたむろっていて、座っているだけで何か声をかけられたりとか、ちょっと大きな声で話していて、怖い思いをしたことがあって、そこが私的に怖いと思うポイントです。

市長：なるほど。

ほかにありますか。井上さん、どうぞ。

井上さん：先ほどまで自転車のマナーが悪いというお話があったと思うんですけど、私も川崎総合科学の生徒で、家が中原区にあるんですけど、そこから20分とか30分とか、そのぐらいかけて自転車で通っているんですね。先ほどの皆さんのお話で、どっちかという、私はグサグサと刺さってしまうところも多くあったんですが、まず車のところをできるだけ車道を走るようにはしているんですけども、車の端っこを走っていると、やっぱり近くに車があるというので怖いというのと、あとすごく舗装が悪くなっているところがすごく多いんですね。急に穴があって、タイヤがめり込んで転びかけてしまったりですとか、そうすると歩道を走ろうかなと思うんですけど、そう考えると、歩いている人に迷惑をかけてしまうということを考えると、やっぱりガタガタの舗装の悪いところをどうにか走るしかないというふうに考えてしまうので、できればそういうところもちょっとずつでいいからきれいに直していただけたらなと思います。

市長：ありがとうございます。

大切なことですね。これ、車では気にならないかもしれないけど、自転車だと凸凹があって、そこに入ってしまうと、不安定になって車に危ないとかというふうなすごく実感のこもったお話でした。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

じゃあ、岸本さん、大学生の立場からいかがですか。

岸本さん：井上さんと似たような意見なんですけれども、自転車はやっぱり車道を走らなきゃいけないということで車道を走ると思うんですけど、自転車の信号が青になって真っすぐ行くときに、車が反対車線から曲がろうとしているんですけど、私たちは自転車なので車道を走らないといけなくて、車がこう曲がってきているのでどうしても歩道側に行かないと通れないというのがあるので、やっぱり歩道を走ってしまうというのがあるので、車道に、ちょっと何か要望にはなってしまうんです

けど、車道にも自転車が走るようなコースみたいのを線を引いていただければ、車が曲がろうとしていても自転車が真っすぐ走ることができるんじゃないかなというふうに思いました。

市長：ありがとうございます。藤枝さん、いかがでしょうか。

藤枝さん：私は信号無視の点で気になることがあるんですけど、よくバスに乗って川崎駅に来ることがあるんですけど、バスがバスターミナルに入るところの横断歩道の辺りで、よく信号無視をしている方がいらっちゃって、バスが止まっちゃうということもよくあります。

信号があればまだ信号に従う方が多いと思うんですけど、信号がなくて横断歩道だけのところは、結構車の方は譲らないことが多くて、それで走って渡っちゃうとか、車の方からしても危ないし、歩行者の方からしても危ない点があると思います。私の大学の近くに末吉橋があるんですけど、末吉橋の交差点って、結構複雑になっていて、末吉橋も今工事をしているので、結構自転車の方も危なかったり、車同士も結構危なかったりしているところがよく見られるので、そこは気になる点だと思います。

市長：ありがとうございます。具体的な箇所も出てきました。

まず、ちょっと自転車の問題とそれ以外の問題というのが、大きく分ければ出てくるかなというふうに思いますので、少し自転車のマナーの問題と、それから整備の話というふうなのは少しちょっと脇に置いておいてもいいですかね。よろしいですかね。

それ以外の部分というふうなのをもう少し具体的に、次の第2部では、具体的にどう改善していくかといったところに話を向けていきたいものですから、まずはどこがどういうふうに具体的に悪いのかというのを徹底的にここで出して、その後2部には、じゃあ、具体的にどういうふうなのができるだろうといったところに話を移していきたいものですから、あと大体10分ぐらいですかね、10分ぐらいで、このこういうところというふうなのがあれば、ぜひ出していただけるとありがたいんですが、いかがでしょうか。

大矢さん、いかがですか。

大矢さん：西口商店街ではごみの美化に関してすごく力を入れて、町内会と力を合わせてやらせていただいているんですけども、その中で、我々がごみをピックアップして捨てるということをしてしながら、皆さんにも常にきれいな西口大通りを継続していただくというような形でやっている中で、さっきよく出ましたけれども、自動販売機、あそこの周りって、やはりいろんな人がたまってくると、その缶の処理がなかなかできず、自動販売機の上だったりとか周りとかに捨てられているということが結構見受けられるので、それをやっぱりきれいにするためにはどんなことを講じたらいかなとかというふうに思いながら見ているんですけども、同じ自動販売機でも、川崎の西口は結構外国人がオリンピック以降ですか、その前からすごくあったのかもしれないけれども、多くなりまして、結構道路に座って、自動販売機の横に座って、それでおしゃべりをしたりとかというのがあるんですけども、習慣の違う人たち、そういう人たちにどのように注意をしたらいいのかなとか、そういった、あとやはり体が大きかったりとか、タトゥーをしていたりとか、なかなか注意するにも度胸が必要というのがあったりとかするので、そういうところがちょっと風紀、はたから見たら外国人か日本人か分からない。だけれども、そういうのを見たときに、あ、風紀が、マナーが悪いなというのを思うというのがあるので、人の目も大切だけれども、外国人の人たちに対してのそういうアプローチですね、こういうことはルール違反なんだよとか、例えば、そういうこともやっぱ

り今後どうやってアプローチしていったらいいのかなということも含めて考えていかないと、なかなかごみの問題とか、そういったものが解決しないんじゃないかなというふうに今思っています。

市長：なるほど。ありがとうございます。

大変実態の上で話していただいたというふうな感じがいたします。

滝澤さん、いかがでしょうか。

滝澤さん：今、ごみの話が出てまいりましたので、私、町内会の会長をやっておりますので、ごみ問題というのはすごくたくさん出てまいります。今、お話がありました外国の方もうちの町内会の中に入らっしゃいまして、やはりちょっとマナーが悪いところも結構ありまして、もう本当に役員で頭を抱えてどうしたらいいのでしょうかということで話し合いました。今、日本語だけではなく、英語とか中国語とか、そういうほかの外国語で説明があるというものをお願いしまして、それを貼るようにはしましたところ、少しずつですけども改善されるようになりました。それですので、その場その場に合わせてみんなで話し合うということも大切なんだろうなと思っております。

市長：ありがとうございます。

やはり生活習慣というか、お国柄によってそれぞれちょっと違うところがあって、それを柔らかくしっかり伝えていくということの重要性というのは、以前にも増してすごく大切なことだなというふうに思っています。そういう意味では、幸区もすごく増えてきていると思うんですが、川崎区は本当にやっぱり外国の方が多いので区役所でも多言語がすごい。例えば保育所の入所のことに関しても、本当に多国籍の方、日本語がまだあまり上手でない方もたくさんいらっしゃるの、様々なアプローチをさせていただいているんですけども、いろんなノウハウがあると思うので、ぜひそういったところも共有化していきたいなというふうに思います。ありがとうございます。

皆さんに一言ずつ、第1部でも発言をいただきたいと思いますが、山岸さん、いかがでしょう。

山岸さん：我々といえますか、私自身、ワーカーとしての発言をさせていただきますが、私はこちらに1年半少し前ぐらいに来まして、最初の印象としましてはとにかくもう開発されていて、きれいな印象というのが強くて、逆にそういうところにちょっと空き缶が置いてある、たばこのポイ捨てがあると、あれ、ここは何か違和感というところでやっぱりちょっと目につくといいですか、そういう印象がありまして、本当にせつかくきれいにしたところを、いかに維持していくということが多分皆さんはすごく取り組まれているかなというふうに感じておりまして、私も通勤上怖いですが、何かちょっとというのはほとんど思ったことがなく、逆に今日のアンケート調査ですとか、皆様のコメントを聞いていますと、大人たちがそのように見られているですとか、我々のマナーというのがこういう形で印象として現れているということ、かなり今日実感させていただきましたので、ちょっと第2部のほうでもぜひ向上に向けて、我々としても一当事者として、何か向上していくために当事者意識を持って取り組まなきゃいけないかなということ、をすごく強く感じました。

市長：それでは、中学校からも2年生来ていただいていますけど、さっき小池さんからコメントをいただきましたけど、上原さん、井出さん、それぞれに今のことについてコメントをいただいているんですか。

上原さん：僕は、ごみ問題から少し外れてしまうんですけど、変質者についてで、僕たちの学校では今、

幸区子ども会議というものに向けて話し合いをしていて、600人ほどの生徒からの意見で出たことがあって、生徒会ですごく共感できたのが、塾の帰りで、結構午後の10時ぐらいとかで夜遅い時間に帰る人が多いと思うんですけど、そのときに親御さんとかがお迎えに行ったほうがいいという意見で、やっぱりこれは治安が悪いというので、そこから派生して変質者というので心配ということで、変質者が1人でもいると不安というのがあるので、やっぱり呼びかけとかも大切にしてほしいと思いました。

市長：ありがとうございます。子ども会議でもこのテーマをやっていたらいいということですね。

上原さん：はい。

井出さん：私もふだん塾に通っていて、夜とかは細い道に入ると街灯が少ないところがあったりして怖いなという印象を実際に受けているので、まちの雰囲気というのが1つと。

あとは、幸区子ども会議のアンケートの中に緑が少ないという、自然が少ないというのもあって、自分たちがふだん通っている道の回りの景色だったりとかも大切なかなと思いました。

市長：ありがとうございます。

皆さん、いかがでしょうか。幸高校のお三方からも、ぜひコメントをそれぞれに入れていただければと思うんですけども。阿部さんからどうぞ。

阿部さん：先ほどもあったんですけど、コンビニがたまり場になっているとか、あと、たばこのポイ捨てなど、そういう身近な困り事が治安につながっているんじゃないかなと思いました。

市長：ここに通うまでの道すがら、そういうふうなものを見たりしましたか。

阿部さん：下校中に歩きたばこをしている人をたまに見ますね。

市長：なるほど、そういうことね。五十嵐さん、お願いします。

五十嵐さん：自分は自転車についてなんですけど。

幸高校の周りはほぼ住宅街なんです。だから、歩道がやっぱり少ないし、あっても狭いので、自分は徒歩で通学しているんですけど、たまに車道に出ている歩行者がいて、自転車は車道を走っているんですけど、それがちょっと危ないなと思いました。歩道が狭い点。

市長：ありがとうございます。座間味さん、お願いします。

座間味さん：先ほど僕らもプレゼンさせていただいたんですけど、夜、部活終わりとかで帰るときにちょっと広い道があるんですけど、そこがすごい暗いなというイメージ、印象がありますね。それで、いきなり歩行者とかが出てくると危ないというのが結構ありました。

市長：ありがとうございます。

少し足したいご意見みたいなものがありましたら。

区長から、いかがですか。先ほど始まる前に少し雑談していた会話なんかもちょうと披露してい

ただいて。

区長：幸区に新たに住もうとしたときに、大体、不動産屋さんのサイトとかを見られる、多分、住宅を買ったり、または借りたりすると思うんですけども、そういったときに不動産屋さんのサイトによりますと、治安のいいまちのチェックポイントというのが書いてありまして、それによりますと、まずは駅から自分の住もうとしている、自宅となろうとしているところまで歩いてみて、例えば夜とかであればシャッターに落書きがないかとか、あとは、よく電柱だとか、あとは電気の変電設備が路上に置いてありますよね、信号の設備だとかで、そういったところに落書きがあるかないかはチェックしたほうがいいですよ。あとは、暗い夜道、痴漢に注意みたいな看板がないかとか、あとはコンビニだとか駅のトイレだとか近所の公衆トイレとかに、やはり落書きだとか鍵が壊されていないかとか、そういったところをチェックすると大体治安のいいまちか悪いまちかを見定めるポイントとなるみたいな紹介が書いてあったんですよ。

幸区内のそういったところを私もところどころ見ると、やはり若干電柱にスプレーの落書きがあったりだとか、アンダーパス、東口へ行く幾つかの地下道であったりするところにもやっぱりそういった落書きが見られたりしますので、やはり新たに住宅を探されている方というのはそういうところを見て、あ、このまちは治安が悪いのかなと思われちゃっているのかなんていうふうにも思えますので、そういったところはできるだけ落書きされたら速やかに対処していかなくちゃいけないと思いますし、皆さんにもそういったところでもしあったらお知らせいただく中で、そういった部分でイメージをよくしていくことができないかなというふうに感じています。

市長：ありがとうございます。

大体、1部の時間がここまでというふうになっているんですけども、一通り少し皆さんからコメントをいただきました。幾つかあったんですけど、自転車問題と自転車以外の問題というふうにご大別させていただいて、自転車は今いろんな課題があるんですけども、ちょっとそれ以外のところを少し今日は掘り下げようというふうに思っています。

皆さんで共有できたのは、1部で、数字は悪くない、だけどアンケートを取る、実態の刑法犯の認知数も10万人当たりで低いと、だけれどもイメージが悪いと、そのイメージの根拠となっているのがやはりマナーだとかモラルだとかそういったところに多く起因している部分というふうなものがあると。そういったものというのを解決していくことというのが、もっともっと求められているのではないかなということだと思いますので、その解決方法、具体的にどうしていくのかということについて2部で話をしたいと思います。

それでは、5分間の休憩でいいですかね。それでは、これから5分間休憩しますので、ぜひちょっとその方法論について考えておいてください。

(休憩)

<市長との意見交換②>

司会：それでは、再び市長と皆様で意見交換をしていただきたいと思います。後半のパートでは、先ほどの意見を踏まえまして、治安イメージ向上に向けた対策について意見交換をしていただきたいと思います。それでは、市長、よろしくお祈いします。

市長：それでは、第2部、引き続きよろしくお祈いします。

それでは、先ほど申し上げたとおり、具体的にどう取り組むかということですが、少し対象を幾つかのポイントに絞ってやっていきたいと思うんですが、例えば今幾つか出てきたのが、コンビニですとか、それから自動販売機というふうなお話もありました。

こういったところにみんながたむろしてしまっているというふうなことがちょっと治安イメージを悪くしてしまっているのではないかなとかということですか、あるいはたばこ問題ですね、あるいはごみ、路上喫煙する人もいるし、ごみをポイ捨てする人もいるとかという、こういったごみみたいなもののマナーというふうなのがまちを汚してしまって、イメージの悪さにつながっているというふうなことですか。あるいは、まちの照明が暗いというふうな声もありましたけれども、これはみんなで取り組むというか、やはりこれは行政的な課題ですので、それはみんなで取り組むということじゃないので、これは抜いておきましょうかね。

それから、主に言うとたばこ、ごみ、公共の場で騒ぐ、こういったようなやや法律でも条例でもという域ではない、先ほど事件にならない事件というふうな言葉もあってあれだったんですけど、ややマナー、モラルに近いところ、これをどう促していくかというふうなことがすごく大事だと、いわゆる規制的なアプローチというよりもどういうふうにそういう雰囲気をつくっていくかというのがすごく大事なんじゃないかなというふうに私は思いましたけれども。

さあ、皆さんから少しアイデアをいただければと思いますが、いかがでしょう。

じゃあ、黒澤さんからいきますか。

黒澤さん：ごみ問題の点なんですけど、1番簡単な解決方法でいうとごみ箱を設置するというのが1番手っ取り早いのかなというのがあって、ラゾーナって、出入口のところにごみ箱があったりすると思うんですけど、やっぱりラゾーナの付近はあまりごみを見ないんですけど、銀柳街側のほうに行ったりするとやっぱりごみが落ちたりするので、それは何でかと考えたときに、やっぱりごみ箱がなくて自分のごみを行き場がなくなっちゃってポイ捨てしている人がいるのかなというのがありますね。

市長：なるほど。2つのポイントがあると思います。

答えるわけではないんですが、経緯とすれば、昔、地下鉄サリン事件というふうなのがあったんですけど、それ以降、公共の場でごみ箱というふうなのをとにかく危ないから減らしてこういうふうな流れになったのと、それから自分のごみは自分たちで持ち帰りましょうよねという、そういう意味でごみ箱というふうなのを減らしてきたというふうな、これは川崎市に限った話じゃなくて、全国的にそういうふうなことになっています。だから、これは非常に難しいですよ。

でも、必要なものは必要なんだけど、必要以上に置いてしまうと、ごみってそもそも自分で出したものは持ち帰るというふうな原則があると思うので、どういうふうな考え方で設置するかというのはすごく課題としてはあると思いますね。

ただ、見方を変えれば、今、黒澤さんが言ったように、このごみをどうするの、ずっと持ち歩かなくちゃいけないのというふうなのはあるというふうには思いますね。ありがとうございます。

井出さん：先ほどあったたばこのポイ捨てとか、私的には少し汚くなってしまうんですけど唾を吐いてしまう人とかがいて、雨が降ったときに水が流れる側溝があると思うんですけど、そこにたばこのごみがたまっていたりだとか、そこに唾を吐いてしまう人とかがいると思うので、少し取組的には自分たちでできることじゃないんですけど、きれいな花の絵とかを側溝のところに描くか、花の絵を描くことで少しちゅうちょというか、ためらう人ができるのでいいんじゃないかなと。

市長：いい視点ですね。ありがとうございます。むしろ、きれいなところにしてそういうことができないように、ちゅうちょするように誘導していくというアイデアですね。ありがとうございます。いかがでしょう。はい、豊田さん。

豊田さん：たばこと路上飲酒に関しましては、間違いなく大人の問題だというふうに考えております。

そこで、2種類の方々が幸区の中にいらっしゃるかなと思うんですが、幸区で働いている方と幸区に住んでいる方という2種類になると思うんですね。幸区で働いている方に関しましては、企業内での周知が必要かなというふうに考えております。企業内の例えば掲示板であったり、あとはイントラネットですとか、そういったところでまず路上喫煙禁止ですよ、違法ですよということを再徹底していただくとともに、路上の飲酒についてももしないようにはしていただくということを周知していただくというのが必要かなというふうに考えております。

それから、市民の方、区民の方に関しましては、区民報などでしっかりとお知らせしていただくというのが必要かなというふうに思っております。

さらに、実際に先ほど申し上げました我々のスペースのほうであった話なんですが、従業員のスタッフが出入りする付近でございましたので、我々も危機に思っております、喫煙は駄目ですよという掲示板ですとかを貼ったんですが、ほとんど効果がなかったというのが実態でした。なので、それは見回りの人が来てくださるようになってからかなり改善されたということが実感できましたので、できましたら、こちらは要望になってくるんですけれども、区のほうで見回りの方をつけていただくというか、この場所、今回ピックアップされた場所ですとかで見回りの方を少し頻度を増やしていただくとか、そういったことがあればより減っていくのかなというふうに思います。その上で、さらにより防止するために、先ほど井出さんからお話があったようなより予防策などを講じていければいいかなというふうに考えております。

市長：ありがとうございます。山岸さん、いかがですか。

山岸さん：今、豊田さんのご意見にありましたとおり、やっぱり企業内、我々大人のマナーアップというのが非常に大切なのではないかなと思う中で、私も仕事柄そういった従業員の方と接する機会が多いです。今後マナーアップですとか、あと、先ほどの第1部で申し上げましたが、そういった行為が見られているという、マナーが悪いということが皆さんにどういう影響を与えているのかという、何でという効果のところもしっかり、駄目ですよとかという周知の仕方ではなく、皆さんのまちですよ、私たちのまちですよという視点で、ちょっとそういった効果のところも少し加えながら、周知していくことも大事なんじゃないかなと改めて感じました。

市長：ありがとうございます。

私たち、企業、市民として、私たちのまちなんだというふうな当事者目線でというふうなのは非常にありがたいコメントですね。ありがとうございます。

管沼さん：1件、質問にもなるんですが、先ほどの豊田さんのお話で見守りというのは、中川さんのような地区の方とも一緒になのか、今現在は区役所の方が来られているのか。

市長：あの人たち、何ていう名前、名称でしたっけ。

管沼さん：民生委員とかそういう感じですか。

市長：いえいえ。

管沼さん：指導している方が、それは区の方なんですかね。よく分かっていないんですけど。

市長：あれは市が委託で、いわゆるポイ捨てだとか喫煙のマナーだとかというふうなのを指導している人たちなんですけれども。

管沼さん：そういう方がいらっしゃるんですね。はい、分かりました。

ちょっと話がずれてしまうかもしれないんですけど、学校のPTAのほうでも、例えば近所でお祭りがあるとか夜店があるという、夜回りみたいな形でパトロールを保護者のほうでしたりするんですけども、なかなか夜遅く出歩くのは難しいかなと思う一方で、お子さんのそういう不安を減らしたりとか地域の更生化につながるのであれば、例えば小学校のPTAですとか、そういうところと協議することも1つの手なんじゃないかなと思いましたので、もちろん学校側との協議も必要になりますけれども、そういったことでこういう問題が解決するのであれば1つの手ではないかなと思いましたので、付け加えさせていただきます。

市長：ありがとうございます。

ちょっと幸区の状況を僕も把握していないんですけど、ほかの区ではPTAとは違うおやじの会みたいな形で夜回りみたいなことをやっている事例があって、そういうのは非常に効果的かなというふうなのがありますね。それぞれのちょっと地域事情があったりするので、そういう取組がありますね。

管沼さん：一応、南河原小学校もおやじの会がありまして、ちょうど昨日学校の草むしりをしたりですとか、あと、なかなかコロナで活動できなかった部分もありますけれども、そういったことをやるとやっぱり地域に根づいている皆さんというのは協力してくださる方が多いかなと思いますので、都度都度募集するとかでも、今いろんな募集の仕方、ネットとか出てきたりですとか、いろいろ便利になってきましたので、また今までと違ったアプローチができるのかなというふうには考えました。

市長：ありがとうございます。

そういう意味では、先ほど上原さんが変質者というふうに言われていましたけど、夜、塾から遅く帰ってくる子たちがまさに当事者ですよね。自分たちの子供たちの環境をどう整えていくかというふうなのにも少し力を貸していただくと、何か本当にもう毎週行かなくちゃいけないとかいいたら、すごく大変なことになるので、ちょっとずつの協力をどうやって得ていくかというふうなことが大事かなというふうには思いますね。ありがとうございます。

どうでしょう。中川会長、何かいただけましたら。

中川さん：たばこの件なんですけど、今日これが終わりましたら、皆さんここのビルの2階、食堂がありますから、飲食店が、そこの脇をちょっと見て行ってください、どのくらい人が並んでいるか。たばこの人を擁護するつもりはありません。それは個人個人で吸われる方、私は吸いませんけれども。

ある意味ではたばこを吸う場所も少し増やしてあげないと、その方たちが吸うことが悪いことだ、悪いことというのは個人の考え方だから、吸う場所も少し増やしてあげたらいかかなと私は思います。それも必要なのかな。

あと、やはり先ほどから皆さんが言われているんですが、私たちは常々、顔の分かる関係、顔の見える関係ということで活動していますけれども、先ほどからPTAの方も学生の方たちもおっしゃっているとおり、やはり私が誰だと分かっているとなかなかやりづらいですよ。何々さん、何々君、こんにちはとかいうと、そこでたばこかごみをぼんと捨てる人はいないと思うんですよ。そのような形でやっぱりPTAとも、我々町内会、自治会とでも連携しながら清掃活動でも、やはりこういう今日の話も私は持ち帰りまして、この南河原町内会連合会でも、1度町会長さんたちときちっと話し合っただけでこういう問題が出たんだよということを浸透させていかなきゃいけないなと思っています。

やはり先ほど来、モラル、マナー、確かに大切なんですけれども、やっぱり周りの目も大切なんですよね。そういうことをさせない、しない、させないなんですけれども、やはり人間というのは心がちょっと緩むときがあります。ですから、やはりあとは環境づくり、周りの目、そういうことが大切じゃないかなと思っています。

市長：これもほかの区役所等ですけれども、実はごみ拾いを町会さんがこの曜日にやっていますといったところに、違う団体が同じ曜日にやっているということで、これはそれぞれの団体の事情があるんだと思うんですけど、商店街さんもやるとかというので結構な規模でやっておられる地区があるんですね。もう少しこれを分散すると、それぞれの曜日を効果的にやると結構回るんじゃないかなというふうなのを、ある集会のときにそういうことが分かって、少し調整しましょうかみたいな話にはなったんですよ。

だから、実はいろんな、先ほどのPTAの話だとか町会の話だとかって、地域ではいろんな方たちがそれぞれすごくいい努力をしてくれるので、重なり合う部分というふうなのをどう重ねるか、重なっていないところをどうすき間を埋めていくかというふうなのを、多様な主体で埋め合わせていくということをみんなで協議できている場というふうなこともすごく大事なんじゃないかなというふうに感じています。

今日はそういうふうな形になればいいなというふうなちょっとくろんではいます。ですから、ある意味、企業さんの皆さんもその輪の中に加わっていただくというふうなことというのが、課題を共有して一緒に何かできること、みんなが無理してやると絶対続かないので、無理しない形というのはどこの領域なのかということもみんなで探り合っていきたいなというふうに思っています。

それから、マナーだとかモラルの話というのは、規制的な方向というのは非常に難しいので、ナッジ理論って聞いたことはありますか。ナッジって、いわゆるちょっと背中を押すという意味の言葉なんですけれども、例えば、よく1列に列をつくってくださいといったときに、足形マークをつけているところがありますよね。そうすると、今までぐちゃぐちゃだった人の列というのが、ぼんぼんと足形を置いただけでみんな等間隔に並び出すというのは、たったあの足形をつけただけで真っすぐに並ぶと、あれは実はナッジ理論なんです。

そういうことだとか、男性のトイレなんかもそういうものってあったり、何かちょっと背中を押してあげる感覚というふうなのが、むしろ、例えば私たち、環境局のごみ収集でどうリサイクル率をアップしていくかといったときに、ナッジ理論によるチラシというのを作ったんですね。実は、隣の人はこんなにリサイクルしていますよというふうなことを言われると、自分もやらなきゃというふうな思いになってくると。あなた、リサイクルをやってくださいと言われるよりも、はるかに

効果的ということで数字上出てきていますし、だから少しこうしむけたい方向に、ちょっと背中を押す方法といたらどうということが考えられるかな。

実は、さっき井出さんだったかな、お花をとかというふうな話がありましたよね。川崎区の放置自転車がすごく大変だったところに、子供さんたちの絵を実はタイルみたいな形にして貼ったんですね。そこは放置自転車がなくなっちゃったんです。というのは、さすがに子供たちが描いた絵の上には自転車は置けないなという形で解決したというのも、これはまたナッジ理論の1つなのかもしれないですね。

ですから、必ずしもここに置いちゃ駄目なんですというふうに言うことだけがそのやり方ではないというか、効果的な方法かというところではないという場合もあるということなんですね。特にモラル、マナーに関してはどう気持ちよくやめていただくか、例えばポイ捨てをやめていただくか、歩きたばこをやめてもらうかというのは、規制のやり方と、もう1つ、そうさせないという、しむける方法というのをどう考えて組み合わせていくかということがすごく大事ななというふうには思います。そういう意味では、さっきの井出さんのアイデアもそうですし、どうごみを捨てられない雰囲気にしていくかというのがすごく大事ななと思います。

大矢さん、さっきの自動販売機のところというふうなもの、なかなか難しい課題ですよ。飲料メーカーが引取りに来る、その頻度というふうなものはこちらで決められないというふうなものもありますね。

大矢さん：ビルのオーナーさんが例えば地元にはいない、誰に言ったらいいんですかというそういった問題が出てきたりとかするんです。私の会社はNICEなんですけど、でもいろいろ缶拾いとかそういうのは毎日できる人が実施はしているんですけども、なかなかやはりそういう形で少しずつでもきれいにして、それで捨てちゃいけないんだ、きれいにしなきゃいけないんだというような、そういう形になればいいかなというふうに思っているんですけども。

市長さんがおっしゃったとおり、やっぱり少しの力ではなかなか広がらないので、町内会をはじめ、本当にいろんな活動をしているので、そういう輪が広がって行って、さっきのごみのグループがどんどん増えていくみたいな形でやりながらまちをきれいにしていく、自分たちのまちだという意識づけというのはすごく大切だなと思いました。

市長：ありがとうございます。

ちょっと高校生に聞いてみたいんですけど、高校生の立場から何か自分たちでできることってどんなことがあるか、この課題について。あったら、アイデアを出してもらえないでしょうか。こんなことができるかもなど。できる、できないは別にして、こういうアイデアもあるんじゃないか、自分たちとしてというのがあったら、聞かせていただきたいんですけど、どうでしょう。

馬場さん：私はちょっと川崎市には住んでいないんですけど、川崎市はそんなに汚いイメージというのは通っていてもあんまりなくて、でもその中でももっとよくしていけるようになるのはどうしたらいいんだろうと思ったときに、その人柄、ポイ捨てが多いとかごみを捨てるのが多い、たばことか、そういうのを見たときに、その人柄を変える必要があるんじゃないかなと思ったんですけど、人柄を変えるって難しいじゃないですか。そういったときに、その人の気持ちだけでも少し変えてもらうようにするためにはどうしたらいいんだろうと思って、学生ができることとなると、学生が毎朝挨拶するとか、駅の真ん中に立って挨拶をするだけで、声をかけられるだけで何か気持ちって、ごみを捨てようとかそういう気持ちはなくなるじゃないですか。

さっき市長さんもおっしゃっていたんですけど、放置自転車の多いところに子供の絵を置いたら少なくなったとかということのように、子供が関わってくると大人はあんまりむげにできない気がしていて、それで私も、よく子供の絵とかを飾っているじゃないですか、ああいうのを見ると心がほっこりするんですよ。そういうところから、子供を組み込んでいって挨拶をさせる、ちょっと難しいとは思いますが、そういうのが1つだけ関わるだけでも少しだけでも心は変わるんじゃないかなと思ったのが1つと。

あと、自動販売機の周りにポイ捨てが多いという話を聞いて、そういうのはいつも同じようなコカコーラのデザインの自動販売機の絵柄だったりとかして、そういういつも見ているものだと大切にしないとなとか、そういう気持ちが薄れていっちゃうと思うんですよ。そういったときに、川崎市限定のオリジナルデザインの自動販売機を設置するとか、これもちょっと難しいとは思いますが、そういった変化球を与えることによって、ちょっとこれは違うなというので、川崎市の自動販売機の周りがきれいになったりとかするんじゃないかなというのをちょっと考えました。

あと、設備のことなんですけど、川崎市の中央改札の上のところパネルがあるじゃないですか、あそこが壊れていますよね。そういう1つ1つの壊れているところ、汚いところというのがあると少しだけそういう気持ちになっちゃったりとか、こういうきれいな場ではポイ捨てしようと思わないじゃないですか。そういう心理とかを使ってやっぱりきれいにして、学生を織り込んでいたり、ちょっと違うものを入れたりとかすることだけで変わるんじゃないかなと思いました。

市長：挨拶をしようというふうなのはすごくいい話ですね。というか、ずっとそういう状態じゃなくても、みんなで挨拶し合っているというふうなのって、考えてみたらめっちゃくちゃすてきな話だし、誰でもできるということはすばらしい話だなと思いますね。実に当事者目線の話をしていただいたと思います。駅前パネル、改修予定です。すみません。

田代さん：私が思うのは、高校生にできることというのとちょっと違うかもしれないんですけど、公共の場でのマナーが悪いというのが、私はすごく電車の中でのマナーが悪い人が多いという印象が強いんですけど、電車内での呼びかけて、携帯電話をマナーモードにしてくださいとか優先席を譲ってくださいとかという呼びかけは結構ポスターとかが貼ってあると思うんですけど、マナーに関する注意書きとかはないじゃないですか、車内とか駅の中で。痴漢をしないでくださいとかそういうのはあると思うんですけど。

電車の中って、乗る人、お客さんしかいないじゃないですか。駅員さんとか、あまり車内にいないので、注意するのなかなか勇気のある人が一緒に乗っていないと注意してくれないというか、してもらえないというのがあると思うんですけど、その電車内にマスクをしっかりとってくださいとか大声で話さないでくださいみたいな、飲酒は気をつけてくださいとか、そういうポスターとか表示があると、ちょっと目に入るだけでも変わるんじゃないかなというのはいいます。

あとは、飲酒と喫煙の話なんですけど、ここで言うことではないかもしれないんですけど、飲酒と喫煙を学生でもしている人が割と多いなって思うんですよ、この川崎市では。それを普通にSNSとかにも平気で上げちゃっている人が割と多いなと思っていて、それが悪いことなんだけど、それが格好いいという感じになっちゃっているのが残念だなというか、それがもっと取り締まられるべきことという認識を学生に強めていくべきなんじゃないかなと思っていて。

それの中でなんですけど、ホテルの中の自動販売機って、お酒を売っているところがあるじゃないですか。自動販売機って、年齢確認とかがなくても買えちゃうじゃないですか。だから、そういうところでも中学生、高校生がお酒を飲めてしまうんじゃないかなとホテルに行ったときに思いま

した。

市長：ありがとうございます。様々な課題がありましたけど、ちょっと鉄道の話というふうなのは鉄道事業者の方の話があるので、そういう声があるということは機会があったら伝えておきたいというふうには思います。ありがとうございます。

大学生、いかがですか。自分たちでできるようなことって、ありますか。

岸本さん：そうですね。私たち大学生からの目線になると、大学生はちょっと大人に近づくじゃないですか。そこで20歳になって、お酒も飲めるようになってたばこも吸えるようになる、ちょっと気分が上がる、うれしい、何か大人みたい、そんな感じで多分コンビニとかそういう公共の場でたむろってワチャワチャしちゃうと思うんですね。

そういうのがあって、まず、この車座集会というのを、YouTubeでも配信されていると思うんですけど、あまり大学生とか若者には多分周知されていないので、こういう場でこの幸区に住んでいる人たち、市長さんとかが地域、区をよくしようとかこういう話をしているんだよというのを、講演とか大学に来ていただいて、もちろん私たちはここに出席させていただいているので、私たちの大学では私たちがこういう話合いをして、地域の方たちはこんなにも幸区の治安イメージの向上に向けてこういう話合いをしているんだよ、なのにこういうことをするのみたいな感じで、ちょっと聞かせる感じの講演などをしていったら、少しは変わるんじゃないかなと思いました。

市長：ありがとうございます。ぜひ今日、SNSで発信していただけますでしょうか。というのは、先ほど田代さんの話にもあったんですけど、ちょっと悪いものというふうなのを投稿していくというそういう流れじゃなくて、いいものを投稿して、みんなこういうふうなものだね、こういうのが格好いいよねと、こっちが格好悪くてこっちが格好いいよねというふうなことを、まさに当事者として誰ができるかというみんながやれることなので、行政として発信していくことも大事だし、みんなそれぞれが中学生も高校生も大学生もみんなできる、今日参加してこんなことをみんなで話し合ったよというふうなことを発信してもらおうということもできるかなというふうには思いますね。

ぜひ、滝澤さん、あるいは伊東さんから、若者にも期待したい、こういうことを一緒にできるかもとか、何かそういうふうなものって、あるいは商業の皆さんだったり、こういう組合せ方というふうなのでこんなことに期待しているというものがあればちょっと教えていただければ。

伊東さん：女性防犯として皆さんにお願いしたいのが、お時間があれば、女性防犯も1か月に1度、幸地区の防犯キャンペーンを行っています。それぞれ、おひとり暮らしのところにはポスティングしたり、電話を留守電にしてくださいというお話する機会があるんですけど、皆さんもお時間があればご近所、自分たちの地域をちょっとパトロールしていただければ、この道が危ないとかここは危険だというのが多分分かると思うんです。ただ漠然と毎日歩いているのと違って、自分が今パトロールしているんだよ、こういうのを見るんだよという気持ちで、ふだん通っている道を通ると結構危険なところがあります。夜はここが危ないねとか、そういうことをやっぱり若い皆さんも協力し、地域のためにやっていただければ幸いかなと思います。

市長：伊東さん、それは日にちが決まっているわけですか。

伊東さん：女性防犯は月に1回で、今までは毎月10日だったんですけど、今度係長が替わったらちょっと

と日にちがばらばらなんです。だから、それでも月に1回は2時からパトロールを行っています。

市長：昼の午後2時。

伊東さん：午後2時です。だから、皆さん、別に午後2時に集まってくださいじゃなくて、もし皆さんのお時間があればそれぞれの場所でやっていただければいいかなと思うんです。結構、今、独り暮らしが多いので、振り込め詐欺とかそういうのにかなり引っかかっていますので、なるべく独り暮らしのところに声をかけて、電話がかかってくるでもすぐ出ないでねとか、留守電にしておいてねとかお話しするだけでも、独り暮らしの人は結構気持ちが落ち着くと言っているんですよ。あ、そういうば昨日かかってきたよという方もいらっしゃるの、そういうものも、やはり自分たちの地域を安全な住みやすいまちにするには、1つ1つやっていったほうがいいかなと思うんです。

市長：ありがとうございます。

滝澤さん、いかがでしょうか。

滝澤さん：ただいま伊東さんにもいろいろと防犯のことをお話しいただいたんですけれども、町内会でも1か月に2回ほど、夜に町内会1周、理事と皆さんでやるのと、あと、日中は小学生が帰る頃に、こちらはポイントに立ってパトロールをしていただくということ。あと、4月に新入生が入りますね、小学校に入るときには今と同じようにポイントに立って子供たちが危険にならないように、昔で言えば緑のおばさんみたいな形で皆さんを、学校に入る時間帯と、朝は7時半から8時15分ぐらいまで立って見ております。

あとは、12月の暮れに、たしか20日から31日まで、こちらは小学校さん、子ども会さんと私たち理事とやっておりますけれども、中学生さんとか高校生さんが参加していただければ、もっと大きな声で、「火の用心」と言いながらやっておりますので、もし私どもから声がかかりましたらぜひ参加していただけますと、すごく力になっていただけるんじゃないかなと思っております。

市長：それは何時ぐらいにやっているんですか。

滝澤さん：それは8時から9時ぐらいまで。1時間かかります。

市長：なるほど。ありがとうございます。

今、伊東さんと滝澤さんからお話いただきましたけれども、なかなか学生さんたちの参加する時間帯としては難しいところもあるかなということと、でもできることって何かあるねと。

ちょっとそれこそ、これから、ちょっと私が知らないだけなのかもしれませんが、区が把握しているかもしれませんが、いろんな団体がいろんなことをやっておられて、いつ、何を、どういうところでやっているのかというふうな情報を全部一括して見ると、そのことによって、あ、この会だったら自分は参加できるかもしれないというふうなのが少し分かるようになっていたほうが、その時間帯だったら僕も私も参加できるなとかというふうな形になれば、毎月は無理かもしれない、毎週は無理かもしれないけど、この日だったら行けるかなというふうなものが、それぞれの団体に行かなきゃ分からないということじゃなくて、少し分かりやすくなっていると、より巻き込みやすいかなというふうには、まだ参加しやすいという感じがしますよね。ありがとうございます。

鈴木さん、いかがでしょうか。

鈴木さん：どちらかという、皆さんからお話がありましたけど、そのマナーの部分であったりだとか、ごみの部分もそうですけど、それぞれの心を変えることはなかなか難しいのかもしれないんですけども、やはりそういった行為に及びにくい状態にするという、ごみであればきれいなところには比較的、ごみは増えないです。あとは、ちょっと危ない人が歩いているみたいなのところも、先ほどあったような住民の方のパトロールであったりだとか、あとは警察の方のパトロールであったりだとかというところ、誰かの目が届いているんだというふうに思うことでそういうことをしにくくなるというようなことがあると思いますので、どちらかという、直接声かけというよりは、そういった形でそれぞれの、例えば学生さんであったり我々ワーカーであったり、あとは住んでいる方々であったりという、それぞれができることを、少しごみを捨てることができないふうにするには、どうしたらいいかなみたいなのところを、できることをやっていくのかなと。

例えば、じゃあ、何月何日にみんなでごみ拾いをしましょうとかとなると、やっぱりそれぞれ都合があったりだとかいろいろ難しい点があると思いますので、それぞれができる時間帯にできることをやっていく。例えば商業施設であれば、1週間なのか2週間に1回、その周辺の路上のごみ拾いみたいなのを我々だけでやるというのもできますし、あとは、例えば学生さんであれば、正直、中学生、高校生の皆さんなんかはもう朝から部活に行って学校に行って、夕方、部活に行って、その後、塾に行ってみみたいな形になるから、平日はもう朝の7時から10時ぐらいまで、ずっともう何か予定が入っていますという場合もあると思いますので、その中でちょっとできること、登下校のときに何かこんなことができないかなみたいなのを考えられるとちょっといいのかなというふうには思いました。

だから、あまり負担にならないことを少しずつやっていくというところが大事ななと思っています。

市長：ありがとうございます。

実はこれは全く別問題なんですけど、子供のボール遊びを応援しようという、子供の学校開放をやったんですね。それをどうやってやるのかとかと、じゃあ、誰が見守るんだというふうな話があったときに、今回、高校生、幸高校の高校生たちが自分たちがやるよというふうな形で声をかけていただいて、え？、高校生って忙しいよねというふうな話だったんですけども、いや、そこは忙しいやつは忙しいし、忙しくないやつは忙しくないとかというふうな話で。

この前も、古川小学校だったんですけども、多くのボランティアが来ていただいて放課後そういう時間をやってくれたというのがあるんですよ。だから、僕、実は中学生、高校生はすごく忙しいしとかというふうに思って、現実で忙しい部分もあるんですけどあんまり決め込まないほうがいいかなというふうに。やれる人はやれるし、やれる範囲でやれるというふうなのというのが、そういう人材はいるんだなということにすごく希望を見いだしたような気がしました。

ですから、ぜひこういった防犯活動もなかなか難しい部分もあるけれども、難しくないところもあるので、ぜひ当事者としてどんな形ができるのかなというふうなのを、今日出し切れなかったということもぜひまた区役所にも教えてもらえれば大変ありがたいなというふうに思います。ありがとうございます。

それから、やっぱりできることをできる立場の人間がやっていくというふうな鈴木さんのお話、ありがとうございました。

ほかに誰か、中学生からはいかがでしょうか。

小池さん：たばこの路上喫煙の話なんですけど、僕の通っている中学校の通学路に路上喫煙をしている人たちがいるポイントがあって、そういうところを見るとやっぱりポスターとかはあまり貼られていないので、ポスターを貼ったほうが良いと思うのと、それとポスターも自分ら中学生、多分その路上喫煙について思っている人が多いと思うので、中学生の声を拾ってポスターを作ってみたり、そのほかの事案でもそういう誰かの声を拾ってポスターを作ってみるというやり方が良いんじゃないのかなと思いました。

市長：ありがとうございます。

さっきのちょっと治安の話でいけば、今年は防犯カメラを集中的に投入します。というのは、これまで川崎市内の防犯カメラというのは、市内満遍なくやってきたところがあるんですけども、モデル的ということで川崎駅周辺に集中的に100台設置します。いわゆる繁華街と言われているところを中心に。幸区のところもやると。10台でしたっけ、そうですね。幸区は10台、駅の反対側、川崎駅東口を中心に90台という物すごい勢いで設置するので、要はピンポイントでここが1番犯罪が起きやすいというふうなところに集中投下するというふうな形で整備をします。ですから、みんなの協力でやっていこうということと、もう1つ、行政側としてしっかりと設置していくというふうな役割という組合せだと思っているので、それはしっかりやりたいと思います。

やはり鈴木さんがおっしゃったように、誰かに見られているというふうな感覚というふうなのは最も抑止としては大事かなというふうに思っているので、防犯カメラというのは1つの、マナーではないかもしれませんが、そういったマナーから犯罪が起きやすいという雰囲気をつくり出していくという意味では、犯罪抑止というふうな形で防犯カメラというのは今年やっていくということになります。

大分時間が少なくなってきましたんですけども、今までのコメントを聞いていて区長から少しコメントをもらってもいいですか。

区長：やはり治安が悪いというイメージが、今日の議論を通じましてやはりその1つの大きな要因が大人を中心とするマナーが悪いというところでありました。それに対して見回り、パトロールであったり、または町内会で今後話し合っただけとか、さらには美化活動をより皆さんと一緒にやっていきたいと思いますとか、挨拶をしたらいいんじゃないかというような様々な意見がいただけて、やはりこういった皆さんの思い、幸区がイメージよくマナーよくもっとまちをよくしていきたいという、皆さんの熱い思いが今日は非常によく伝わってまいりました。この力を結集させて、やはり区全体としてさらに誇れるまちにしていきたいなというふうに感じましたし、1番心強く思ったのは、これって皆さんの思いが一緒だと、1つになれたという点は本当に今日、非常に感激しております、これをきっかけにますますいいまちづくりをしていきたいと思っておりますけれども。

お話にありましたように、活動をそれぞれの皆さんができるだけ、あまり過度な負担ですと1回、2回で終わってしまいますけれども、それぞれの皆さんがあまり負担感を感じないような形で参加していただく、それは今ある活動を見える化して、様々なところで様々な活動をしていただいているので、それを見える化してそこに加わっていただくというやり方もあれば、さらにはそういった活動だとなかなかスケジュールが合わないから、自分たちでできるところはやる。よくお母さん方の自転車にパトロール中とか何かステッカーが貼ってあったりするものがあると思うんですけど、ああいったのも、多分全体として集まりには参加できないお母さん方が、個々ではちゃんとあなたたちの態度を見ているよという形で見られているというところを期待しての多分パトロールなのかなということをおもいました。

あと、もう1個ありました。駅のビジョンが壊れている話がありましたけど、駅のビジョンは逆に直るようですので、そういったものを活用して、例えばさっき幸高校さんとか科学高校さんにもご協力いただいて、マナーアップのCMなんかも、ちょっとあーいったのを使ってPRしていくことで、子供たちから大人たちに対してもっとマナーよくしてというようなメッセージを掲げられたらいいなとも思いました。

この分野、様々な解決策がありますので、そういったのをみんなとともにこれからやっていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

市長：先ほど中川会長のほうから昔のお話があって、その頃はなかなかマナーという以上にもっとすごかったんだというふうな話があって、今、開発が進んですごく以前に比べたらきれいになったし、安全になったというふうな話がありました。

実際に平成14年からずっと一貫して犯罪の認知件数というのは低くなっていて、これは実は川崎だけじゃなくて全国的には14年からぐっと下がっていつているんですね。それはいろんな社会背景があると思います。おかげさまで、去年というのは犯罪の発生率というのは、過去最低に近かったというふうに思っています。更新したんですね。実際の数値というのがこれだけ下がったというのは、恐らく、いろんな背景がありますけれども、地域の見守り活動だとかいろんな様々な地域の人の力があってここまでみんなやってこられたんだと思うんです。

ただ、まだやれることというのはあるよね、これだけ多くの区民の皆さんが不安に思っていると、安全なのか安心なのかといったときには確実に安全にはなったと思います。だけど、安心まで行き着いているかといったら、まだここに課題が残っているということだと思っるんですね。そのためには、やはりこれまで繰り返し言ってきたように、マナー、モラルの部分というのは法律や条例で規制するというだけではなかなかできない部分があるので、みんなでもうやったらそういう雰囲気をつくり出せるかと、環境をつくり出せるかということに注力していかないと、その溝は決して埋まらないんだというふうに思っています。

そのためには、今日お集まりいただいた中学生、高校生、大学生もそうですし、事業者の皆さんやPTAのような保護者の皆さん、地域で活動していただいている人たち、ほかにももっとたくさんの人たちがいると思います。もっと多くの人たちがこのことに関心を持っていただいているはずなんですね。ただ、その活動にはまだ至っていないという方も事実多いわけで、その人たちを巻き込む策、どういう組合せ方だったら、もっと効果的にできるのかというふうなのを考えていきたいというふうに思っています。

例えば、先ほど伊東さんがおっしゃっていた高齢者のオレオレ詐欺みたいなことに対するものというのは、やっぱり昼間の時間のほうがいいと思うんです。昼間の時間帯にはやはり学生さんたちは参加できないよねと、ですからどこの時間帯でどういう活動が効果的だというふうなのをしっかり明確化して、それに対して誰が今取り組んでいるんだけれども、プラスこういう要素があればいいということをみんなで共有して、それをみんなである程度見える化するということによって、仲間を広げていくことにしていきたいというふうには思っています。

今日はこの会議で何かこれをみんなでやりましょうねということにはなりませんけれども、しかし、これは冒頭申し上げたようにプロセスの1つです。この会をきっかけにして、どういうふうなアプローチをすれば、今のこの課題に対して効果的なのかということ、みんなで主体的に考えていきたいというふうに思っています。

今日参加していただいた高校生の皆さん、私もそうですけれども、こんなこともやっているよと、いい情報というふうなものを、まさに幸高校の皆さんには分析までしていただいたので、分析から

行動に変えていくというふうなところをみんなでやっていきたいなというふうに思っています。多世代でいろんな多種多様な人たちが協力することによってまちは構成されているので、それをみんなで安全安心なまちに、安心なまちにつくり上げていくということにみんなで頑張っていきたいと思います。

幸区、今回こういうテーマの車座集会になりましたけれども、車座集会というのは1つのきっかけ、プロセスのところではないので、ここからが本当の勝負だというふうに思っていますので、引き続き皆様のご協力をいただきたいと思います。今日をご参加いただいて本当にありがとうございました。

司会：それでは、以上をもちまして第53回車座集会を終了いたします。

皆さん、本日はありがとうございました。